

BACK 2 SKOOL

written by HADEYA

1

俺とお前、お前と俺。

苦楽を分かち、闘った猛者。永遠のライバル。

抑え切れない破滅願望、破壊衝動。そして俺たちは——

2

「ちょっと校舎裏に来るのよ」

Eは告げた。呼び出された女はビビっている。

「……何しに行くんですか？」

「宇宙人よ」

「う、宇宙人？」

「宇宙人が校舎裏にいるみたい。退治する必要があるでしょ？」

笑顔だ。Mは笑みを浮かべている。残酷な笑みを。笑みを見た女子生徒は動揺を隠せない。

「わ、私が行く必要は——」

「あるのよ、ビッチ」

冷淡な口調でEが言う。Mが背中から女子生徒の肩を押す。

「ビッチ、って言う宇宙人なの。誰の事か分かる？」

「……」

「分かってるみたいね」

「私はビッチでは——」

「あなたはビッチよ。人類の裏切者」

女子生徒の名はナオコ。日本人。正式名称、野口尚子。ナオコは世界を売った——誰も見ていないところで。人知れず。発見したのは、Mだった。

「メラニア大統領に——」

「大統領は私。エクスカリバーよ、ビッチ」

「取り合えず、校舎裏に来るのよ。ナオコ」

こうして三人は校舎裏へ向かった——不良学校〈ナダ・ハイスクール〉の。

惨劇はそこで起こる。

3

犯される。連中とて犯したくないに違いない。ビッチの事は。
それでも犯す。ビッチが……ナオコが世界を……自分をウルから、だ。

次々、犯される。アメリカン・フットボール部員たちに。金になるなら何だって売っちまう。核ミサイルも、友人も作品も。ナオコって、女は何だって売っちまう。今夜の売り物は自分の身体で、買い手はフットボール部員だ。しかし
——

フットボール部員たちは知らなかった。ナオコが陰部に〈バクテリア〉を完全武装している事を。

知らなかった、では済まされない。部員たち全員のペニスが壊死して行く。ナオコは笑顔だ。満面の笑みを浮かべながら告げた。

「ここに特効薬がある。人食いバクテリアの」

言いながらナオコはEとMを指差した。そして最後通告を下す——それ以上の事は言わなくても分かるでしょう、アメフト・チーム？

けれどもEとMは動じない。とっておきの秘策があるから、だ。

Eが言う。

「やっぱり正体はビッチね。宇宙人」

「はい、大統領。私が噂の〈ビッチ〉でございます。バクテリア族と取り引きを交わしているでございます」

「私たちも危険な種族と取引があるのよ」

「出て来るのよ、狂犬」

「……おや？ 誰も来ませんが？」

ナオコが不敵な笑みを浮かべる。両手を掲げ、宣言した。

「出でよ、ビッチ族！」

ビッチ族にはロクな者がいない。反社会勢力……裏でコソコソ動き回る奴等。破壊分子。過激派。筋金入り。

両手を天に掲げ、ナオコは叫んだ——

社会を破壊するのだ！ ビッチ族！

4

https://music.youtube.com/watch?v=l_upe5f0KbU&si=DPmqd36EqGOXP5h2

悪党どもが跋扈する。

野々村順子が先陣を切った。就労継続支援……障害者の就職斡旋業〈四つ葉のクローバー〉の代表である順子による理不尽な差別行動。利用者によるソーシャル・メディアの禁止、アングラ組織を活用した監視、違反者への解雇処分。これらは言論の自由、人権侵害、社会的抹殺を意味する。

苦言を呈する職員には様々な懲罰、さらに解雇された者が〈ハローワーク〉を利用できなくするよう、エリアの斡旋担当に個人情報無断でリークする。

障害者の希望になるべき立場にありながら、数々の越権行為を働いているのだ。巧妙かつ大胆に。信じられないかも知れないが、事実である。作者である私——HADEYAも被害者の一人だから、だ。

5

沖縄県におけるヘリパッド建設反対運動——代表者の名は不明。

首都圏の小さな箱——バーやレンタルスペースにて同志のカンパを募る。集めた金で部下への諜報活動を行う。

ユントクと言うニックネームで知られる女性代表は恋人にして補佐担当である若きブレン、空師隼人を永久追放し、彼の身柄を政府に売った。隼人は冤罪の罪を被り、独房に投獄された。国家反逆罪を逃れる事で隼人は条件を飲んだ。何かあった時の為、アングラ組織が隼人の家族を人質に取る。

ユントクの動機は隼人が真相を知り、歯向かったからだ。ユントクは警戒する。隼人の親友にして、映像テロ組織の代表である〈キリミハデヤ〉の存在を。

そして、HADEYAへの違法な監視が始まる……。

6

今日も〈イディオッツ・コンピューター〉の商売は繁盛している。人気ロックバンド〈RADIOHEAD〉のファンを称し、収集したステルや音源の数々を秘密裏に売却する。

近日、RADIOHEADはニューアルバムを発表予定だ。どこかで音源を入手した、イディオッツは闇取引を交わし、儲けている。今日も商売繁盛だ。

時を同じくして〈忍者アクセス解析〉の情報がHADEYAの耳に入る。

日本政府の命令で〈誰か〉が設計したのだ。パソコンのデータを自由にハッキング可能にする、安値でポータブルなサービス……つまり民間用のエシユロンを。

HADEYAは三島キラ美と匿名掲示板の設計で有名な人物による共謀と見ている。

嘘だと思うなら、〈忍者アクセス解析〉と言う語で検索して欲しい。

7

黒幕——日本政府。首領の名は野原美樹……またの名を〈三島キラ美〉だ。

彼女はHADEYAの先輩の妻で、一方的にHADEYAを憎んでいる。その根底にあるのはHADEYAの作品利権。歴史上屈指の文豪の作品は金になる。そこで民間用エシュロンを通じ、作品を略奪した。社会パニックに便乗し、荒稼ぎしている訳だ。

キラ美が幾ら稼いだかは不明だ。しかしHADEYAには<1円も>提供されていないのが事実だ。のみならず、人知れずHADEYAから金銭の略奪を繰り返し、家族と父の一族を皆殺しにした。日本でやりたい放題やっているのだから大したモノだ。

もはや司法までをも乗っ取ったキラ美の次の狙いは世界進出だ。

以下、知っている範囲で事実を話す。音楽の再生を停止し、真剣に読んで欲しい。

8

目の雨を<人影>が横切った。モーション・ブラーのような影が視界を横切り、フツと消えた。しかし誰の影かは分からない……。

9

その日は突然、やって来た。世界最大のインターネット通販<Amazon>の日本支部が乗っ取られたのだ。<集英社>はトップページにて堂々とポルノ小説を販売。さらには決済ボタンを押すと、何故か<支払いポータル>なる外部サイトへジャンプし、決済を命じられる。

Amazon.jpは利益を不当に搾取されている……直感がそう告げていた。私の作品も一冊も売れていないから、だ。世界政府を相手にキャンペーンを行ったのに、それはあり得まい???

もし三島キラ美がアメリカ政府職員であった場合、このサイバー攻撃は<現職アメリカ政府職員によるポツダム宣言を無視した全世界一斉攻撃>を意味する。ま、まさか……第三次世界大戦……???

10

キラ美の動機——ちょっと、ふざけただけ。事実なのである。本当に事実なのだ。鷹が知れたエゴとプライドからキラ美はアマゾンジャックしたのだ。構図は以下の通り。

資金源: 広域指定暴力団「山口組(傘下の住吉会)」。ツカサシノブ組長とキラ美組長。

指示役: トミー(伊原裕也こと山崎友三)と彼の元恋人のヒトミ。

通信役: カトリツトム。

実行犯: シンスケなる人物。そしてディープフェイク映像を制作し、悪の限りを尽くした人物こそが——

タケハルテラウチ。

それに加わる動物虐待ビジネス。黒幕は日本政府。CODEとゲノム技術を駆使して大量のクローン人間を製造。レイプと処刑は許される。クローン人間は動物だ、と言う自分勝手な解釈。特攻隊長に日本警察。その証拠に私は警察へ足を運んだ。キラ美の乾燥大麻使用の供実は目の前でスルーされた……。

今、この瞬間も多くの女性が被害に怯えているのである。日本警察は知らん顔どころか実行部隊なのだ。

11

闇の中、声がある。

「……大統領、実行ですか？」

「ゴーサインよ。どこから攻める？」

「野口尚子を校舎裏へ呼び出して下さい。不良学校、ナダ・ハイスクールの」

「何者なの？ 尚子とやらは」

声が告げる。怪しい声が告げる。

「反撃の狼煙。住吉会が雇ったデザイナー」

12

両手を天に掲げ、ナオコは叫んだ——

社会を破壊するのだ！ ビッチ族！

アメフトチーム全員が一斉にEとMに襲い掛かった。その時、目の前を影が横切った。

モーション・ブラーのような影。MAD DOG族の王、キリミハデヤだ。

HADEYAは告げた。

「26年4月3日15時3分。これより第三次世界大戦、反撃開始」

HADEYAが人影となり、忽然と消えた。ナオコの背後にフツと現れる。ニヤリと不気味な笑みを浮かべつつ。その手には〈親指の爪〉と呼ばれるダガーナイフ。

ナオコの顔が青褪める。その表情から血の気が引いて行く。

ナオコが吠えた。

「お、覚えてろー！」

一目散に尚子が逃げて行く。そしてバナナの皮でスっ転んで頭を打った、とさ。ナオコは映画〈キャリア〉のように頭から流血し……めでたし、めでたし。

さあ、学校に戻ろうぜ。伝説の不良学校——ナダ・ハイスクールへ。
カモン・ボーイズ&ガールズ。一時限目の授業は算数の足し算だ！(了)

キリミハデヤ

hadeyakirimi@gmail.com

81-080-9832-0574

モリカワ ケンタロウ 口座番号

三井住友銀行(店番号232) 普通口座 口座番号:7342872